

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

人事部の課題と改革

- 多くの日本企業では、人事部の顔が見えず、人事の判断基準も不透明と見られてきた。そんな中、新たな制度導入するなど、人事部が内側から変わり始めようとしている。まず一つ目は、過去 3 年以内に見直した人事評価制度では、①成果重視の色彩を強くした。②シニア層よりも若手層の処遇を厚くした。つまり、脱年功序列が進んでいる。その背景にあるのは、成果主義の給与体系に移行しなければ、他社に優秀な人材を奪われかねないという認識である。
- 二つ目に、企業がかかえる深刻な課題では、①グローバル人材の育成。②女性の活用。③将来の幹部人材の育成。④優秀な人材の活用。⑤シニアの活用。特に「グローバル人材の育成」は、簡単に解決できるものではない。入社から、横並びの人事が行われ、個人の頑張りが処遇に反映されない制度の下では、世界で戦える優秀な人材が育ちにくい。
- 三つ目に、従業員の離職率では、最も高いのは、流通・小売業だ。従業員に占める 1 年間の離職率の割合は 9.9%、新卒社員が 3 年以内に離職した割合は 23.0% だった。流通・小売業に含まれる外食チェーンには、新卒社員の離職率が 3 割を超える社、中には 6 割超の社もある。いずれも、過酷な労働条件が理由だ。地方銀行の一部では、新卒社員が 3 年間で 2 割以上辞めるところもある。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2015 年 5 月 2 日・9 日号)

経営者のための理念・哲学

経営理念を念頭に事業領域を拡大

赤塚 保正 (柿安本店社長)

- 創業者、赤塚安次郎が三重県桑名市に祖業である牛鍋店を開業したのは 1871 (明治 4) 年。来年で創業 145 年を迎えます。長寿の秘訣は、「主力事業が旬の時期を終える前に次の分野を見つけ出し、収益の柱を少しずつ移してきたこと」です。ただ、闇雲に次の挑戦先を選んできたわけではないことです。「同じ食の分野だから」「何となくもうかりそうだから」そんな曖昧な基準で多角化を図ったのではうまくいきません。
- 柿安本店は、次の 2 つの条件にあてはまる分野にのみ、事業領域を拡大してきました。
 - ① 人口動態や社会の変化からみて、今後、確実に需要が増える分野
 - ② 創業から続く経営理念「おいしいものをお値打ちに提供する」ことが可能なことです。

(参考:「日経ビジネス」2015 年 4 月 27 日・5 月 4 日号)

新規成長分野

新業態のカフェの登場

- ここ数年、上質のコーヒーやパンケーキなどのメニューを提供するおしゃれなカフェが若い女性を中心に盛り上がりを見せている。これに外食各社も反応し、次々と新業態のカフェを投入。ファミリーレストランを展開する「すかいらーくグループ」は 3 月 7 日、横浜市南区に初のカフェ店舗となる「むさしの森珈琲」をオープンした。デザインコンセプトは「高原リゾートの珈琲」。店舗の最大のセールスポイントである椅子は、座り心地にこだわり、女性の顧客に向けたデザインの品をオリジナルで製作。
- 一方、昨年 12 月 17 日に新業態のカフェをオープンしたのが「ワイアードカフェ」などを展開するカフェ・カンパニー(株)。場所は、東京・新宿のルミネエスト新宿店 8F で、店名は「B. B. B.」。「おいしくてしあわせな朝食を、1 日中」をコンセプトにして、アメリカ・ポートランドでも人気の「ビスケット」を主力商品に展開している。

(参考:「野村週報」2015 年 6 月 15 日号)

古典に学ぶ

夢と現実 (その 4)

(解説) この件が鄭の国王の耳にはいると、国王は、「裁判官もまた夢のなかで鹿をわけたのではないかと大臣にたずねた。大臣は答えた。「夢か夢でないかはわたしにはわかりません。それがわかるのは、黄帝と孔子くらいでしょう。いまは黄帝も孔子もこの世におりませんから、誰にもわかりません。まあ、裁判官の判決どうりにしておいてよろしいかと思えます」

(参考: 奥平卓・大村益夫訳「老子・列子」): 徳間書店